

Press Release

2020 November



— 大工道具、たてももの、日用品
フィリップ・ワイズベッカーが見た日本

Philippe Weisbecker Inside Japan

Carpentry Tools, Architectures, Daily Items

2021/2/13 sat - 5/9 sun

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

竹中木工道具館では、2021年2月13日[土]から5月9日[日]の会期で、「Philippe Weisbecker Inside Japan: Carpentry Tools, Architectures, Daily Items | フィリップ・ワイズベッカーが見た日本 ― 大工道具、たてもの、日用品」展を開催いたします。

日常の風景の中にある、何気ないものの魅力を独特な感性でシンプルに描くフィリップ・ワイズベッカー氏。今回は彼が日本の暮らしの中で見つけた素敵なものを紹介します。道路にあるバリア、ゴミ箱、トラック、街中でみる木造やコンクリートの建物、畳がある風景、木の空目、そして大工道具まで、さまざまなモチーフの作品が揃いました。また他ではなかなか見ることのない制作のノート、材料、愛用の道具も展示します。パリにあるお洒落なアトリエの様子も映像で用意しました。

欧米のアーティストの目線で普段気づいてない日本の「用の美」をぜひご覧ください。

この機会に貴紙誌にてぜひ記事としてお採り上げいただきたく、宜しくお願ひ申し上げます。

謹白

2020年11月

公益財団法人 竹中木工道具館

展覧会名

Philippe Weisbecker Inside Japan: Carpentry Tools, Architectures, Daily Items
フィリップ・ワイズベッカーが見た日本 ― 大工道具、たてもの、日用品

会 期 2021年2月13日[土]～5月9日[日]

会 場 竹中木工道具館 〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1

開館時間 9:30～16:30 (入館は16:00まで)

休 館 日 月曜日 (祝日の場合は翌日)

入 館 料 一般500円、大高生300円、中学生以下無料、
65歳以上の方200円 (※常設展観覧料を含む)

主 催 竹中木工道具館

後 援 在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ日本

協 力 ヴィラ九条山

お問合せ 竹中木工道具館 TEL 078-242-0216 FAX 078-241-4713

E-mail weisbecker@dougukan.jp

公式サイト https://www.dougukan.jp/special_exhibition/weisbecker_kobe

展示総数：約140点

作品数：約87点 (新作：約60点、近作：27点)

制作ノート他9点 (ノート5点、モニタージュ他4点)

制作道具・コレクションなど41点



※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、
今後、会期や休館・イベント情報が変更となる可能性があります。
最新の情報は竹中木工道具館の公式サイトをご確認ください。

※本展は、東京のギャラリー エー クワッド (会期：2020年10月2日～11月20日) と神戸の竹中木工道具館の巡回展です。

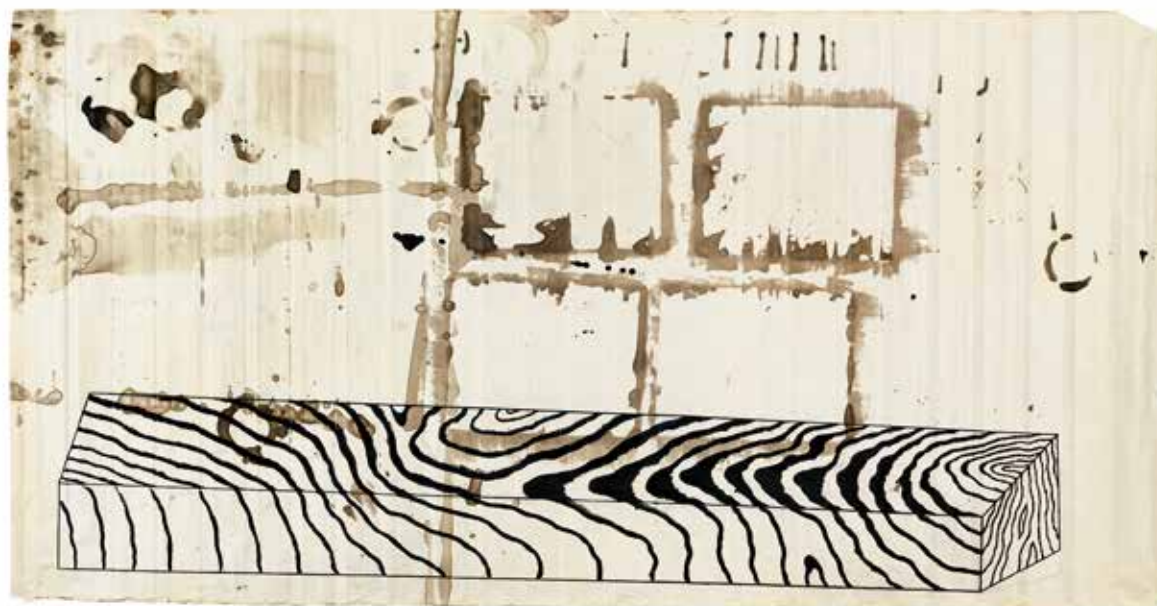
見どころ①
大工道具

大工道具はワイズベッカー氏が大事にしているモチーフの一つ。今回は今までのフォーマットや表現方法から離れ、新しい表現に挑戦し、大きなドローイングを通して大工道具や空目を意欲的に描き出しています。



1. 鑿 | 2020 | 1250×860

破れた部分にテープを貼って取ってあった20年前の紙に描いた作品。いつもは鉛筆で制作するが、質感のあるこの紙には弱すぎたため、グアッシュ（不透明な水彩絵具の一種）で描いている。



2. 梁 | 2020 | 1920×1000

銅版に防蝕液を塗る際に下敷きにした紙に描いたドローイング。自然の成り行きで、折り目や鉄分、油分の跡が残った紙に、梁という主題を合わせている。

この「Inside Japan」展が神戸の竹中大工道具館で開催されることになったため、大工道具をもっと描かなくてはと思った。だが、20年前に制作したドローイング作品の焼き直しはしたくない。私が求めているのは、なにか新しいもの、自分を驚かせるようなものだ。そこで数か月前から、いつものフォーマットや表現方法から離れ、大工道具や木っ端などを、大きなドローイングを通して描き出すという意欲的なプロジェクトに取り組んできた。非常にエキサイティングな体験をした。これを観る人たちにも、私の情熱が伝わることを願う。

フィリップ・ワイズベッカー

鋸の黒い刃と白い紙のコントラストが楽しめる大きなドローイング。鋸の鋼の質感が^{はがね}よく表れている。白い紙は質感のある華奢な紙で、別の紙をコラージュして使っている。



3. 二つの鋸 | 2020 | 1100×1000

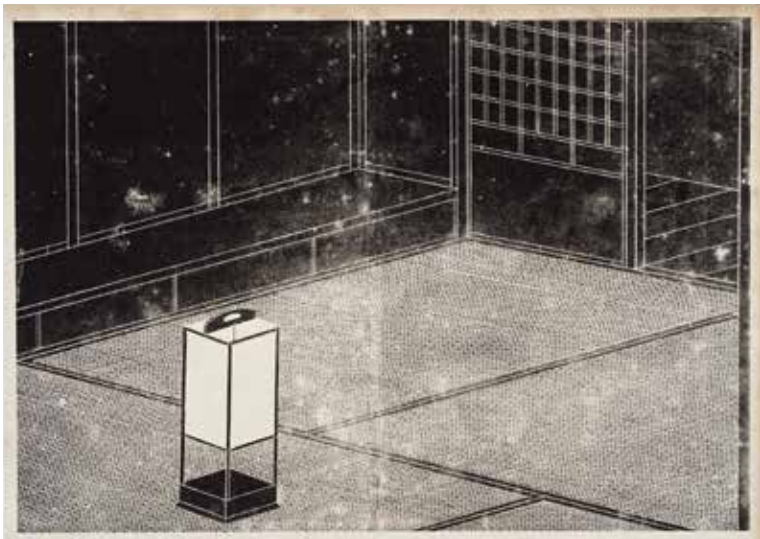


4. 四つの鋸 | 2020 | 1000×1000

見どころ②
たてもの

日本国内の旅行や仕事で訪れたところで見つけたお気に入りの建物を描いています。建物全体を俯瞰した特有のパーズで、木造建築から近代のレンガやコンクリートの建築まで様々な建物がモチーフになっています。

5. 畳 ランタン 4 | 2017 | 300×210



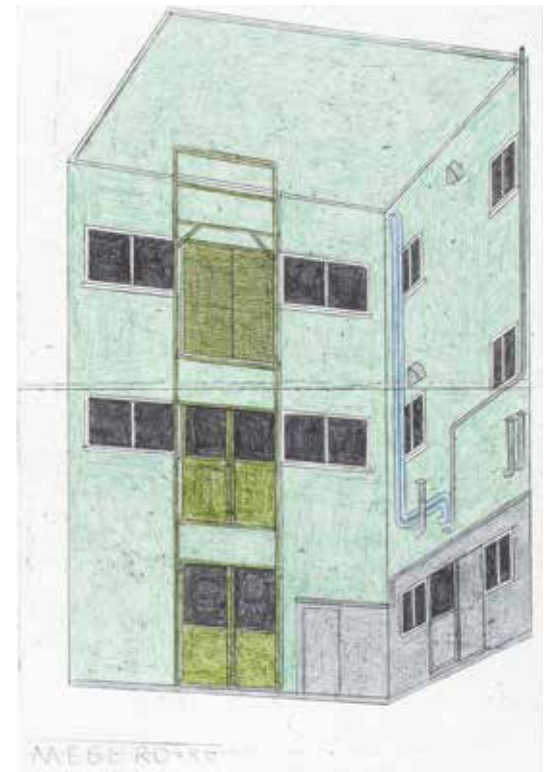
6. 上京区 | 2020 | 290×280



7. 京都 TOTO | 2020 | 290×280

どういわけか木という素材が好きで、端正な大工仕事を賞賛せずにいられない。いうまでもなく、日本の伝統建築にも一目惚れした。さらに明治時代、20世紀前半に建てられた小さな建物についても、とても面白く感じていると認めざるをえない。私にとってそれらは、当時の西洋建築のずいぶん突飛でユーモラスな解釈に感じられ、見ると微笑んでしまうのだ。どんな街角にもある、実に興味をそそる壊れやすそうなたてものについてはどうかといえば、もちろん全部大好きだ。

フィリップ・ワイズベッカー

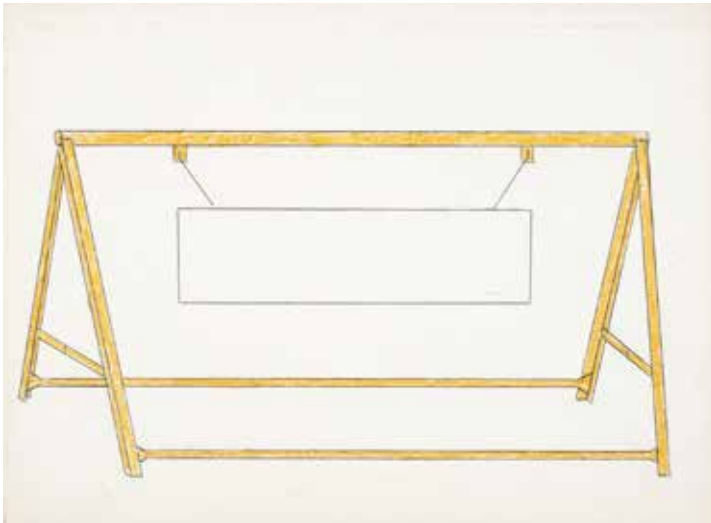


8. 目黒区 | 2020 | 390×565

見どころ③
日常品

普段の生活でほとんど意識していない、道にあるガードや標識、缶を捨てるゴミ箱、トラック、日常を彩る急須や花瓶など、日本の暮らしの中にあるものたちを描きました。

9. 柵6 | 2020 | 380×280



10. ペットボトル専用 | 2020 | 240×322

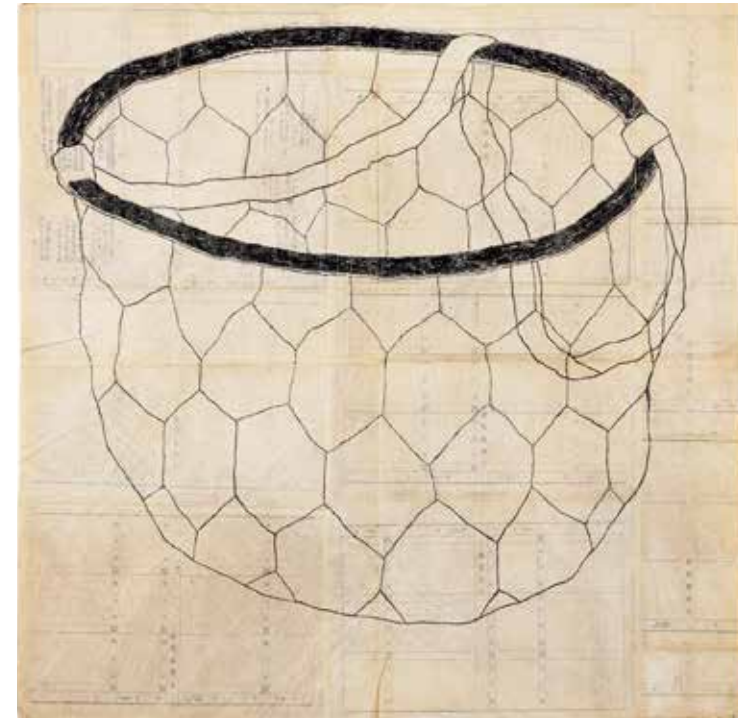
なにかを慌てて飲み込もうと大きく開けられた口、あるいは、命令を思い出したような目。ソーダの空きびん用ゴミ箱は、日本の都市景観の一部を暗黙のうちに占めている。そういうものとして、なんらかの評価を受けるに値すると感じる。

フィリップ・ワイズベッカー



11. 犀川大通り 午後5時 | 2020 | 223×160

12. ワイヤー籠 | 2020 | 870×870

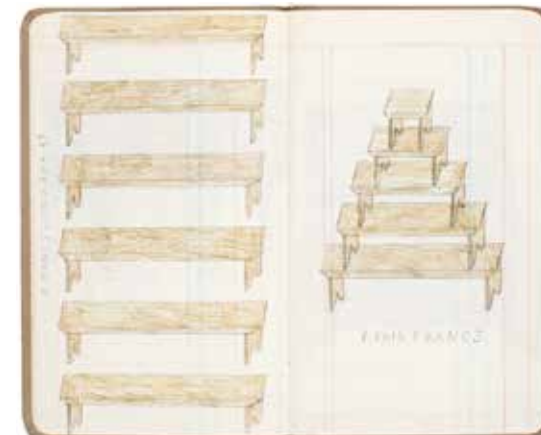
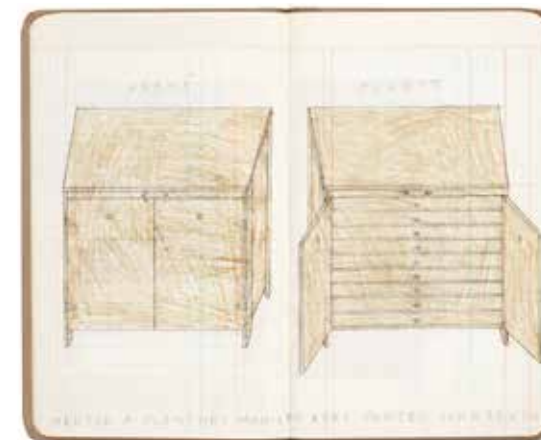


見どころ④
アトリエ

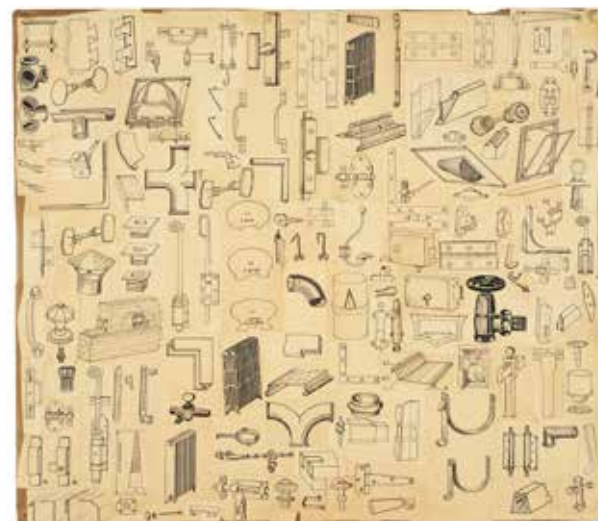
普段制作に使っている道具をはじめ、日本で見つけたお気に入りを集めたスクラップノート、家具のデザインノート、パリのアトリエの様子わかる動画など、作品だけではなく制作の舞台裏もご紹介しています。



13. アトリエ

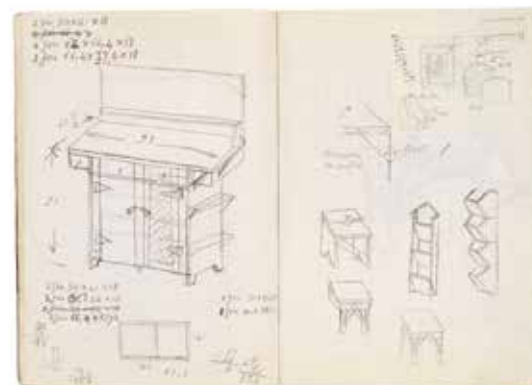


15. CASH | 1998-2002 | 190×310



14. 金物1 | 2008 | 400×350

16. CAHIER 96 PAGES | 1998 | 210×300





17

フィリップ・ワイズベッカー (Philippe Weisbecker)

1942年生まれ。1966年フランス国立高等装飾美術学校(パリ)卒業。1968年ニューヨーク市に移住し、活動を始める。アメリカの広告やエディトリアルイラストレーション制作を数多く手がけた後、2006年フランスに帰国。アートワークを本格的に制作開始し、欧米や日本で発表を続けている。2002年にはアンステイチュ・フランセ日本が運営するアーティスト・イン・レジデンス、ヴィラ九条山に滞在。日本での仕事も多く、JAGDA、NYADC、東京ADCなど国内外で受賞。2020年東京オリンピック公式ポスターも手がけている。作品集に『Philippe Weisbecker Works in Progress』、『HAND TOOLS』などがある。

関連映像 (Youtubeにて公開中)

Movie

1. トークショー「フィリップ・ワイズベッカーの作品世界」(約50分)

フランス・パリにいるフィリップ・ワイズベッカー氏と東京のギャラリー エークワッドの展示会場をインターネットで繋ぎ、フィリップ・ワイズベッカー氏ご本人の本展覧会への思い、作品のテーマ選び、作品づくりの過程、使われた素材など、普段なかなか聞けない作品の舞台裏についてお話を伺いました。

https://www.youtube.com/watch?v=7pyC4Pi_5Yo&t=5s



2. アトリエ映像「ワイズベッカーのアトリエ」(約13分)

フランス・パリのアトリエから制作に使う「紙」「鉛筆」「テープ」「定規」と大工道具や様々なコレクションについてワイズベッカー氏本人が解説しています。

<https://www.youtube.com/watch?v=Pp2wKj6ISM4&t=3s>



◎ワイズベッカーサイン会

日時：2021年4月10日[土] ①14:00～②14:30～③15:00～

場所：竹中大道具館 1F 特設会場 定員：各回とも10名(事前申込制、応募者多数の場合は抽選)

参加費：無料(別途本展図録代と入館料が必要) 申込締切：2021年3月19日[金] 必着

◎〈デッサンワークショップ〉ワイズベッカーと一緒にマイストゥールをデザインしてみよう

日時：2021年4月11日[日] ①10:00～12:00 ②14:00～16:00

場所：竹中大道具館 B2F 木工室 定員：各回とも大人8名(事前申込制、応募者多数の場合は抽選)

参加費：5,000円(別途入館料が必要) 申込締切：2021年3月20日[土] 必着

関連イベント申し込み方法

ウェブサイトまたは往復はがきに下記事項をご記入の上お申し込みください。

○ウェブサイト▶公式サイト(https://www.dougukan.jp/special_exhibition/weisbecker_kobe)内よりお申し込みください。

○はがき▶[往信用裏面] ①イベント名(ご希望日時も) ②参加者氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤年齢 [返信用表面] 宛先に申込者の郵便番号、住所、氏名をご記入ください。裏面は未記入のこと。

[申込み先] 〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1 竹中大道具館イベント係

※ハガキ1通につき1名様までお申し込みいただけます。※参加可否の詳細は締切日以降10日程度でご連絡いたします。※ご記入いただいた情報は厳重に管理し、イベント以外の目的には使用いたしません。

**※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント情報が変更となる可能性があります。
最新の情報は竹中大道具館の公式サイトをご確認ください。**

広報用画像のご請求

○画像データ1～17(JPEG)をご提供いたします。メールにてお申込みください。

画像データをメールにて送信いたします。

○画像をご使用の際は必ずご案内のクレジットをご表記いただき、申請の目的以外にご使用なされないでください。

○掲載記事・番組内容について情報確認のためにグラ刷り、原稿の段階で下記事務局までFAX送信ください。

○お手数ですが、掲載紙・誌、または録画媒体等を下記広報事務局あてに1部ご寄贈願います。

※読者プレゼントとして本展図録5部、または当館招待券ペア(2枚)5組を提供することができます。

※その他、撮影などの取材をご希望される場合は別途事務局までご連絡ください。

【お問い合わせ】 「フィリップ・ワイズベッカーが見た日本」展広報事務局(竹中大道具館内)
〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1 TEL 078-242-0216 FAX 078-241-4713
E-mail weisbecker@dougukan.jp



日本で唯一の大道具の博物館「竹中大道具館」は、大道具を収集・保存し、研究や展示を通じて後世に伝えていくことを目的に設立されました。常設展は7つのコーナーに分かれており、唐招提寺金堂組物の実物大模型、五感に響くハンズオン展示などを通して大道具の魅力をお伝えします。また博物館そのものが「匠の技の数々を肌で感じてもらえる場」となっており、建物の各所には大工や左官、瓦師などによる伝統の職人技をちりばめました。シンボリックで自己主張の強い建築ではなく、人と自然をやわらかくつなぐ存在としての「和」の建築を楽しんでいただければ幸いです。

〈アクセス〉

○山陽新幹線

「新神戸駅」中央改札口より徒歩約3分

○市営地下鉄

「新神戸駅」北出口2より徒歩約3分

○シティ・ループ

「12新神戸駅前(2F)」下車徒歩約3分

○神戸市バス2系統・18系統

「熊内6丁目」下車徒歩約2分

